

その作図法を創案した。本報では直線上でなく、曲線上に設定されるダーツについての基本的な作図法を求めるのが目的である。

2. 直線上に設けられるダーツ設定の作図法を応用する方法と別の作図方法について考えてみた。

3. 直線上に設けられるダーツ設定法を応用する方法としては、設定直線上に再現された再現設定線を用い、この両起点間内に曲線があるものとして、作図順位を逆に運用すれば曲線上に設定されたダーツの展開図が求められる。曲線上に設けられた二つ以上のダーツについても同様に展開できる。

第2の別法は転移法とでもいうべきもので、つままれたる角度を開き、ダーツ形成線を展開して作図していく。二つ以上のダーツについてはまず一つについて展開、展開後の転移された曲線上の第2ダーツについて展開を行なえば目的は達成される。

B—65 ダーツに関する研究（第5報）
—ダーツ設定の作図法について（その2）—

高知女大家政 市川 一夫
○村田 菊子

1. 前報までに直線上に設定されるダーツについて、理論的考察を行ない、諸因子量間の函数関係を見出し、